

17 小松市の小中アスベスト使用実態下

2.7.1 社党が国会議員調査団派遣

肺がん性や肺障害の原因物質、アスベスト(石棉)の環境汚染が問題化している中で、社会党は二十日、国会議員調査団(団長、小川國彦衆院議員)を小松市に派遣、断熱、防音材としてアスベスト

を使っている市立稚松、芦城小学校と芦城中学校を視察、実態を調べる。同党本部の要請に基づいたもので、同党がアスベスト問題で調査団を派遣するのは初めて。調査団は小川議員のほか、小沢克介、木間章、同党本部委員長でもある嶋崎謙の各衆院議員。同日午後、稚松小、芦城小、芦城中の順に回って現状を視察、同行する県教委、同市教委担当者に、対策を安全に、かつすまやかに取るよう申し入れることも。同党が今後アスベスト問題に取り組み際の参考にする。

同市内では、市教委の調査で小学校四校、中学校二校で防音材としてアスベストを使用していたことが判明。各校とも、はく離が目立ち始めたため、同市教委は石綿を吹き付けていた天井、壁を安全な吸音ボードに付け替える工事を実施、現在すでに三校で完全に工事が終わっている。芦城中の一部と芦城小は今夏、稚松小は来年度にそれぞれ工事を完了する予定に決まっています。